

## 【日本獣医生命科学大学】附属博物館監修の書籍『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』が3月23日に刊行 — 謎のキリンの骨格標本の正体に迫る

日本獣医生命科学大学には一号棟と呼ばれる木造校舎が存在します。この校舎には長年にわたり、キリンの全身骨格標本が展示されていました。長い歴史の中でその正体は忘れられかけていましたが、同大附属博物館の調査によりその正体が「長次郎」と名付けられたキリンであることが判明しました。2023年から2024年にかけて長次郎を紹介する企画展を実施し、2024年4月には企画展開催記念イベントとして「キリン講話会」を開催しました。

このたび、同博物館の監修した書籍『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』が発売されることとなりました。Part1では、国内におけるキリン飼育の黎明期を振り返りつつ、長次郎の歩みを明らかにしていきます。Part2では、国内外で活躍する4名の専門家により、キリンという生き物が多角的に語られています。また、「あとがき」は同大の鈴木浩悦学長によるものになります。概要は以下の通りです。

### ■『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』書籍情報

【判 型】 四六判

【ページ数】 200頁

【ISBN】 ISBN978-4-87502-586-3

【監 修】 日本獣医生命科学大学附属博物館

【著 者】 石井奈穂美・郡司芽久・川田伸一郎・清水勲・齋藤美保ほか

【発 行】 工作舎

【価 格】 本体2,000円＋税

【目 次】

- ・はじめに 羽山伸一
- ・Part1 麒麟児は何処から 石井奈穂美 ほか  
「あなたは誰!?!」  
アフリカから日本へ  
日本初の麒麟児誕生  
上野から井の頭自然文化園へ  
兄弟の行方  
麒麟児の今後
- ・Part2 キリン講話  
[1]化石が示すキリンの進化 郡司芽久  
[2]明治時代のキリンの標本 川田伸一郎  
[3]国内キリンの個体群管理について 清水勲  
[4]野生キリンの暮らし 齋藤美保
- ・あとがき 鈴木浩悦(日本獣医生命科学大学 学長)

### ■関連ページ

・日本獣医生命科学大学附属博物館

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004.html/>

・工作舎 キリンが来た道

<https://www.kousakusha.co.jp/BOOK/ISBN978-4-87502-586-3.html>

(関連記事)

・日本獣医生命科学大学が4月13日にキリン講話会を開催 — 企画展「キリンが来た道～麒麟児 長次郎の歩み～」開催記念(2024.01.17)

<https://www.u-presscenter.jp/article/21431>

・日本獣医生命科学大学が2024年5月31日まで企画展「キリンが来た道～麒麟児 長次郎の歩み～」を開催(2023.11.14)

<https://www.u-presscenter.jp/article/22799>

### ▼書籍に関する問い合わせ先

工作舎

TEL: 03-5155-8940

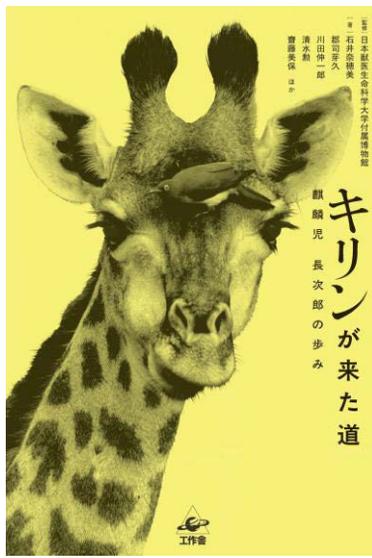
E-mail: saturn@kousakusha.co.jp

### ▼博物館に関する問い合わせ先

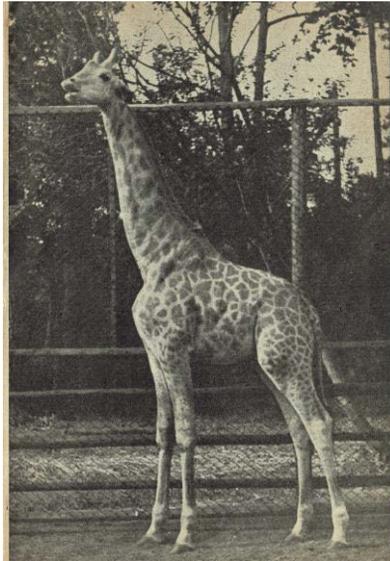
日本獣医生命科学大学附属博物館

TEL: 0422-31-4151(代)

E-mail: museum@nvlu.ac.jp



『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』表紙



生前の長次郎 (画像出典: 東京都編(1944)『井之頭恩賜公園 自然文化園』(第3版))



骨格標本になった長次郎